

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 永生高広

主査 田 中 伸 哉 教授
審査担当者 副査 神 山 俊 哉 准教授
副査 武 富 紹 信 教授
副査 松 野 吉 宏 教授

学 位 論 文 題 名

Mesothelin and CA125 Expression in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma
(膵管癌における Mesothelin と CA125 発現の検討)

膵癌は予後不良の癌であり今後新たな治療法が必要な疾患の一つである。我々は Mesothelin というタンパク質に注目し mesothelin 発現は生物学的悪性度を増加させ CA125/MUC16 と高い親和性を有し腹膜播種に関係があるとの報告もあることから通常型膵管癌における mesothelin および CA125/MUC16 発現と病理学的因子の関係および再発形式との相関について通常型膵管癌 66 例を対象として検討を実施した。病理学的検討において Mesothelin 過剰発現群 (以下 M 群) は非 M 群と比較して分化度が低く脈管浸潤を認めた。予後に関しては M 群および CA125 過剰発現群はそれぞれ非過剰発現群に比べ有意に予後不良であったが Mesothelin および CA125 共発現群が最も予後不良であった。

上記発表に対して Mesothelin 発現の部位による違い、悪性度に関する最近の知見、前駆体と Mesothelin 本体の function の違いなどの質問を受け、それぞれに対して、Mesothelin 発現は腫瘍先進部に多く認められること、悪性度に関する最近の知見として最近ようやく過剰発現細胞株ができ始めており論文が数多く出始めていること、Mesothelin 本体と前駆物質との function の違いは現時点で文献上認めておらず現時点で膜発現陽性が予後不良であることが分かっているのみであることを答えた。

この論文は、英文誌 Pancreas で高く評価され、今後の Mesothelin 研究の臨床応用のための基礎データとして期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。